

令和7年度入学式式辞

本日ここに令和7年度、東北文教大学山形城北高等学校の入学式を挙行するにあたり、多くのご来賓の皆様をお迎えし、ここ「やまぎん県民ホール」を会場に、このように盛大に新入生の皆さんを祝福できますこと、私ども教職員にとりまして、この上ない喜びです。

ただ今、入学を許可いたしました369名の皆さん、ご入学おめでとう。

皆さんは、おそらく人生はじめての試練とも言うべき高校入試に臨み、本日、晴れて入学を認められました。オリエンテーションの場でもお話しましたが、アドラー心理学では、「未来だけでなく過去までも変えることができる」という考えに立ち、「今、ここを生きる」ことに集中し、「これから何ができるか」に注力すべきだと説いています。

人間は過去が未来を決めてしまうほどやわな生き物ではありません。本校に憧れて入学した人も、第一志望が別にあった人も、あるいは不登校であった人であっても、皆さんは今同じスタートラインに立っているのです。苦しいときほど、「今、ここを生きる」という原点に立ち返ってください。

本校は大正15年、今から99年前、山形裁縫女学校の設立に始まります。大正末期から昭和初期にかけては世界的な大不況で、その波は山形にも押し寄せ、開校の喜びもつかの間、学校の経営状況が悪化し、当時の校長は閉校を決定します。開校からわずか7年のことでした。

しかしながら、主任教員であった富澤カネ氏は、在学する生徒への責任と、生徒たちの学校存続を叫ぶ悲痛な声、教育に対する情熱などから、新しい学校の設置を決意します。そして、昭和8年10月、県の認可が下り、山形女子職業学校と校名を変更、10月20日に開校式を行いました。富澤カネ氏ご自身が初代校長に就きますが、時に28歳という若さでした。

カネ氏は回顧録の中で、「どんなに時流が変わっても、人間として生きるため、これだけは変わるまい、と突き詰めて考え生まれたのが《敬愛信》である。人を敬い、人を愛し、人を信じる。またそれは、人に敬われ、愛され、信じられる人間になってほしいという願いが込められている。」と述べています。いよいよ本校は、来年創立100周年を迎えます。創設者の強い思いに応えるべく、《学びの道にタネをまこう》をキャッチフレーズに、精進して参りましょう。

さて、『人生をビンに例える哲学の授業』という有名な動画があります。まずはその内容を紹介します。

アメリカのある哲学の先生が教室で学生の前に立ち、大きなガラスビンを取り出します。教授はそのビンにゴルフボールを入れ、ビンがボールで一杯になると、「このビンは満たされていると思うか？」と尋ねます。学生たちはみんな「Yes」と答えます。

次に、教授はゴルフボールよりも小さな石をビンに入れ始めると、小石はしだいにボールの隙間に入り込んでいきます。教授は再び「このビンは満たされているか？」と聞くと、学生たちはまた「Yes」と答えます。

すると、今度は細かな砂を取り出してビンに注ぎ込みます。そうすると砂は小石の隙間を埋めていき、教授はもう一度「これでビンは満たされたか？」と尋ねます。学生たちは笑いながら「Yes」と答えます。そして、教授は説明を始めます。

ゴルフボールは人生で最も大切なもの、小石はその次に大事なものを象徴しています。そして、砂は日常の些細なことを表します。もし、最初にビンを砂で埋めてしまったら・・・ゴルフボールや小石の入る隙間はありません。これは、人生における優先順位の話であり、大切だと思うものから先にしなければならないという教えになります。

中学校までの義務教育においてゴルフボールにあたるのは、私は疑いもなく勉強だと考えます。高校になったら、将来を見据えた勉強も大事ですが、得意なことや好きなことがあれば、それを突き詰めてみるのもよいでしょう。しかし、ゲームやSNSに費やす時間は最後に入れる砂であって、それだけで時間を埋めてしまっはいけません。

高校3年間はあっという間に過ぎていきます。青春時代にこそリアルな体験をたくさんしましょう。時にぶつかり、時に支え合い、そして共に涙する。もしかすると突然、恋に落ちることがあるかもしれません。それらすべてが、《敬愛信》を校訓とする本校が求める理想なのです。

あしひきの山桜^{けなら}花日並べて　かく咲きたらばいと恋^こひめやも

これは奈良時代の万葉歌人、山部赤人の短歌です。霞城公園の桜はまもなく開花しそうですが、この歌は、山桜の花がこれから何日も何日も今のように咲いているのなら、こんなに心惹かれることはないだろうに、すぐに散ってしまうから悲しいのだ、と詠っています。

今日皆さんは真新しい制服に身を包んでいますが、この制服を着て4度の桜を見ることはありません。高校生活、一生に一度の貴重なこの時間、自分は今何に注力すべきかを考え続ける三年間にしてください。

結びになりましたが、保護者の皆様に一言ご挨拶申し上げます。本日はお子様のご入学、誠におめでとうございます。

これからの3年間は人生の方向を決定する大切な時期でもあります。私たち教職員は、お子様が自ら進むべき道を自分の力で切り拓いていけるよう、全力を尽くし支援して参ります。そのためにも、学校と家庭が相互に信頼しながら、子どもたちの背中を押し、倒れそうになった時には共に支える立場として協力し合いましょう。

実は、先ほど紹介した『人生をビンに例える授業』には続きがあります。教授は砂を詰め込んだ後、今度はビールを2本取り出し、ビンの中に注ぎます。ビールは砂の間を通り抜けると、学生たちには笑いが起こります。そして、教授は「どんなに忙しくても、友人と一緒にビールを飲む時間はあるだろう」と笑顔で話すのです。皆さんにも、幾つ歳を重ねても一緒にお酒を楽しめる親友がきっとできることでしょう。

本日、高校生活のスタートラインに立った新入生の皆さんが、この学び舎で個性豊かな仲間と出会い、そして切磋琢磨しながら、愛し、愛される人間となることを期待し、式辞とします。

令和7年4月7日

東北文教大学山形城北高等学校

校 長 大沼 敏美